

第2回 九州圏広域地方計画有識者会議(令和4年12月27日開催) 議事概要

※「○」は意見・質問等の発言。「⇒」は「○」に関連する意見等

■議事 (1)情報提供:『金融面からみた九州経済』について

- 海事クラスターにおけるカーボンニュートラルについて、LNG船をはじめとした船舶や海運、ターミナル、関連するマルチモーダル輸送のカーボンニュートラルというのはどのように考えているか。
 - ⇒・LNG 船はあくまでもトランジションであり、その先に水素やアンモニアの議論は当然出てくる。
 - ・カーボンニュートラルポートの議論も、各々の港で自港の話にとどまっており、議論が深まっていない印象。今後は、水素などの燃料のサプライチェーンやどこを重要な受け入れ港湾とするかについて、九州だけでなく近隣エリアも含めて議論が必要。
- 外資系企業(多国籍企業)の九州への投資動向についてどのようにお考えか。
 - ⇒円安の状況もあり、投資動向は旺盛と聞く。M&A で日本企業を買いたいというニーズは把握しているが、具体的話までは把握していない。
 - ⇒海外から九州への直接投資という意味では、おそらくグリーンフィールド投資よりも M&A や大規模な事業承継に外資が絡んでくるものと思っており、注視が必要。
- 九州は農地や林業の面積割合が多く、それに付随した食品産業等が排出している CO2 を削減する場合、金融機関としてサポートするような枠組みはあるか。
 - ⇒枠組みは現在ないが、豊富な山林資源をカーボンオフセット要因として正しく評価し、かつ排出権取引の枠組に乗せられると林業の再生に繋がるのではないかと、ということで研究を実施している。伐採とその後の植樹といった、林業の循環サイクルもうまく評価していき、排出権取引の枠組みができてくれば、金融による支援の枠組みに入ってくるのではないかと考える。また、フードロスの削減はESG投融資の取組に含まれるため、地方銀行等ではそういった取組を評価する仕組みを作成している段階と捉えている。
- 投資を呼び込むためにインフラや環境等、他に必要だと考えることについて教えていただきたい。
 - ⇒現況の投資は、九州のインフラや立地条件等の優位性によるもの。今後の軸はカーボンニュートラルであるが、カーボンオフセットがされている電源の供給ができれば、企業誘致の誘因力となる。九州は太陽光発電も含めて電力が豊富で、魅力向上につながる。
- 運輸部門におけるCO2削減について、今後九州で取組むべきことがあれば教えていただきたい。
 - ⇒九州における運輸部門のCO2排出量は1/4程度であり大きなセクターである。今後は、水素等のインフラの整備が大きな鍵となるが、受け入れ港の議論にとどまり、その先の輸送の議論に進んでいない。現時点では、水素は横持ち輸送コストが高いため、今後の需要に備えて新しいエネルギー源を供給するためのインフラ整備が課題となる。
- 九州はアジアが近いことから、アジアからの観光客が多いが、欧米豪からの観光客が少ない理由等状況についてお尋ねしたい。

⇒九州への直行便が少ないことも、欧米豪からの観光客が少ないことの原因と思われる。ただし、日本に何度も来訪している人が東京や大阪の次に九州に来訪しているパターンが多く、そこを無理に突き崩す必要はない。日本旅行リピーターの来訪先として九州を選んでもらえれば、欧米豪からの観光客誘致が可能。

■議事 (2)『地域生活圏・エネルギー・食料安定供給・重点分野(産業構造転換、グリーン国土等)』について

■議事 (3)これまでの意見整理と新たな広域地方計画の作成に向けた意見について

【将来像について】

- 将来像としては、前回会議で示された『成長センター「九州」』は産業面、『元気な九州圏(地域生活圏)』は居住を意識した地域生活、『美しく強い九州』はレジリエンスやカーボンニュートラルの対応の枠組みとすれば、この3つの分類が非常にわかりやすい。
- 将来目標を考えるにあたり、九州の魅力や強みを強調する内容となれば、将来の方向性が出る。
- 前回会議で示された3つの将来像の表現において、「成長」は「持続可能な成長」とし、「元気な九州」は「誰もが活躍できる九州」とし、「美しく強い九州」は「安全な経済活動を展開できる九州」という表現に修正した方が良く考える。これを目指すものとしたときに、その先に九州がどのように世界から憧れてもらい、世界に様々な貢献ができるようなイメージの九州を作成したい。そのためにはどんな九州を作成したいかといった夢あることを打ち出した方が良い。
- 九州が世界から憧れられる存在になった時に、様々なものの価値をうまく表現していくような地域になり、安売りする地域ではなく、そういうものを体現する言葉が欲しい。資料の中にラグジュアリーという表現があったが、質の高いものを目指していくためには良い単語だと思う。

【横串について】

- 産業面・生活面両方の供給と調達を意味する言葉として、「サプライチェーン」が横串として追加が適当。
- 地域福祉の世界では課題を持っている方々に対し課題を達成するのではなく伴走して支援をする「伴走型支援」の取組が進められ、支援をするやり取りの中で、その方の自己有用感や肯定感を高めていき、幸福に結びつけていくというような考え方が主流になっている。伴走型支援は福祉だけでなく、計画部会資料ではそれ以外のところもカバーしていると思うため、横串という考え方に馴染むかどうか分からないが、そういったことも少し念頭に置いて今後検討していく必要があると考える。

⇒伴走型を議論する際に、誰が伴走するかで気になる事は、連携や地域が共同で取組む時に、能力を持った人の存在の有無が九州のローカルでは課題となる。目標を実現する時のことを考えると、連携や共同で取組む際のシステムは綿密に組む必要がある。例えば、まちづくりの分野では、伴走者は特定の人が伝道師や渡り職人のように活動しているが、その人材を地域で共有

できるかといった現状もあるため、人材確保は大事である。

- 横串の前提として壁の種類を明確にする必要がある、例えば行政の課と課、国と県と市、民と官、あるいは民の中でも壁はあり、分野によって、壁の種類が違ったりするが、どんな壁があるかということ意識しながら連携というものを議論しないと、全体的に漠然とするようなイメージとなる。横串という意味で伴走型というのは大事な話である。
- 「金融」の観点も横串として必要。
- 「人権」の観点がないと福祉やそれ以外のパートナーとも上手く繋がれない。人間の権利や公平性が位置づけられた上で九州のベースや幸福を謳っているように明示してほしい。
⇒「インクルーシブ」という表現でも良いかもしれない。人権を目標にするのではなく全ての物事に対して貫くベースとして位置づける形になるものと思う。
- 横串の中で不足していると思ったのが、「産業構造転換」や「イノベーション」。これらは、新しいものに取り組むといった九州気質にも関係。「グローバル」はインバウンドの受け入れや世界とつながる産業を多く創り、国際化、アジアや世界に向けた先端だということを打ち出す意味で大きい。さらに、人材確保ではなく、「人材育成」や「子育て」とし、「レジリエンス」「ダイバーシティ」「インクルーシブ」も追記して良い。
- まとめると、経済、生活、安全基盤に関わる横串として「イノベーション」「グローバル」。カーボンニュートラルは安全・安心の基盤であり、横串としては「環境」や「持続性」。産業面・生活面両方の供給と調達に関係する「サプライチェーン」。人材確保より人材育成との意見があったが「人材」とし、先ほど意見のあった人権を含むものとして追記して良い。

【地域生活圏について】

- 地域生活圏の形成に向けたエリア規模で想定している、1時間圏域、10万人程度の規模について、九州圏広域地方計画にどのくらいの要素を加味していくものなのか。九州でも10万人規模を集合体として捉えるという事か。
⇒地域生活圏については、計画部会の内容をそのまま引用して説明したものであり、10万人程度の都市の事例が挙げられているが、これに拘束されることはない。
⇒地域生活圏は、エリアを地図で括ることはせずに、医療や福祉等の分野で別々の地域と圏域を形成するイメージであるが、不効率になる気もしている。

【その他記述が必要な項目等について】

～防災、インフラ整備～

- 令和2年の球磨川災害の時に全ての一般国道が通行止めとなる中、唯一九州道だけが通行可能であった。中九州道は整備途中で、東九州道はほぼ暫定二車線区間が続き災害に対して非常に脆弱である。この状況下において、九州としては「災害時の交通機能確保」については是非明記していただきたい。
- 事前復興プランについて、国土のグランドデザインにおいて小さな拠点について議論があったが、小さな拠点は突き詰めていくと、災害時に二世帯、三世帯と取り残されるところは防災集団

移転が必要。地域の災害を踏まえて集落を集約化することでCO₂の削減にもなる。九州は土砂災害が全国で一番激しく、小さな拠点のさらにフリンジの小集落をどのようにしていくかについて議論として取り上げてほしい。横串としても防災集団移転等による災害のレジリエンスを高めることでの地域再編のカーボンニュートラルということで記載できる。

- 平成30年の西日本豪雨で山陽道及び山陽ルートの鉄道が止まり、物流は大きなダメージがあった。第5次全国総合開発計画では阪神淡路大震災を受けて山陽道の代替ルートとして太平洋新国土軸の豊予海峡ルートが位置づけられたと記憶。豊予海峡について計画に記述できない場合であっても意見があったことは残してほしい。
- 口蹄疫や鳥インフルエンザ発生時には国道は消毒で止まる。高速道路はインターチェンジで防疫ができるため、広域の輸送を確保しながら防疫が可能であることから、高速道路というのは畜産にとって餌を輸送するというだけでなく、口蹄疫のようなものが出た時に、経済を止めないで対処するという時に大事な道具になることについて感染症の項目の中に記述が必要。
- 防災減災の観点として、市民セクターとの連携が重要で、計画の段階から市民セクターをうまく巻き込み、情報共有する仕組みの位置付けが必要。
- 九州で洪水や土砂災害が多い原因として、山林、林道の問題や山の管理の問題というのを指摘されていると思うが、山の中がどのような状況かが地元の方でも把握していないことが多く、それを把握するようなシステムを作ることが必要なことについて計画に記述が必要。
- 九州から世界から憧れられる存在となり、質の高いものを目指していくためには、海外との繋がりと、国内他圏域との繋がりと第二国土軸の話は記述する必要あり。入れ込まないといけない。
- インフラのつながりや、経済上のつながりの一方で、つながりにより大規模な畜産農家ではウクライナの戦争で餌が入ってこない等の状況もあるなかで、つながることと自立することは分野によって異なるため、上手に表現することを考えていかないといけない。

～カーボンニュートラル～

- 九州では太陽光発電が多い状況であるが、一方で自然破壊型の再生可能エネルギー(太陽光発電施設を森林伐採して整備)も多い。森林を保存、メンテナンスしないとCO₂を吸収しないため、森林をしっかりメンテナンスしてCO₂を吸収させ、太陽光ではなく、森林でカーボンニュートラルに貢献していくというのは森林が多い九州の中では大事なコンセプトであり、そのような趣旨について記載が必要であり、九州は特に太陽光と森林の多い地区であるため、是非率先してほしい。
- 九州は、太陽光、風力発電等再生可能エネルギーに恵まれており、グリーン水素を作成できる日本で数少ない地域であるため、再生可能エネルギーを生かしたグリーン水素の生成地区を目指すべきであり、イノベーションにも繋がり、多くのスタートアップが生まれる。特に九州大学や北九州市は水素に対して元々力を入れているため、水素は輸入するよりグリーン水素を生成する産業を新しく育てると良い。
- 豊予海峡だけでなく観光や海運にも関連するが、九州はやはり瀬戸内との繋がりを考える必要

がある。船で運搬することで、カーボンニュートラルの実現にも繋がる。豊予海峡は道路がいいと思うが、関西・関東までの距離が200km短くなりカーボンニュートラルにも寄与するので、その辺りも記述する必要がある。

⇒産業の構造転換という意味では、太平洋ベルト地帯というのが大きく、瀬戸内は九州にとって大事な場所になる。

- イノベーションについては、climate tech の支援という観点を持ち込んで支援に取り組むような動きもあって良い。特に、国全体のスタートアップやヨーロッパのESG投資の潮流をみても、climate tech の分野に投資が集まると見立てることができる。九州がスタートアップではなく、climate techに取り組むことが位置づけられれば、特徴となり良いことだと考える。九州の強みとしてトピックスとして扱うのではなく、climate tech全体に取り組んで行くことを位置づけてはどうか。

～感染症対策～

- 長崎大学がワクチン開発拠点として10月に指定され、熊本市にワクチンメーカーの協力も得て今後ワクチン開発が進むこととなるので、九州内での取組として記述してほしい。

～女性活躍～

- 久留米市には、久留米10万人女子会というのが結成されており、女子会のように気軽な形で知り合いになり、そこから地域課題を研究して、まちづくりや教育といったものに生かしていくという取り組みがあるため、女性活躍というのは職場だけでなく、地域における領域にも目配りしていくことが重要。

～国土の安全保障～

- 山林の不在地主や、農地の荒廃、土地の所有者がわからないといった状況から、例えば外国資本に買い荒らされたりしている。国土管理、国土強靱化は、九州だけでなく全国ベースで考える話だと思うが、九州でも非常に困っている状況であるため、国土の安全保障として項目を立ててほしい。

以上